

0342

訂改
徵
兵
令

改訂
兵
令

九年

朕惟ルニ古昔郡縣ノ制全國ノ丁壯
 ノ勇ヲ軍團ヲ設ケ以テ國家ヲ保護
 ス。周ヨリ兵農ノ分ナシ。中世以降兵
 權武門ニ歸シ兵農始テ分レ。遂ニ封
 建ノ治ヲ成ス。戊辰ノ一新ハ實ニ千
 有餘年來ノ一大變革ナリ。此際ニ當
 リ海陸兵制ニ亦時ニ後ヒ軍ヲ制セ
 サルニカラス。今本邦古昔ノ制ニ基

キ海外各國ノ式ヲ斟酌シ全國募兵
ノ法ヲ設ク國家保護ノ基ヲ立ニト
欲ス汝百官有司等ク朕カ意ヲ體シ
普ク之ヲ全國ニ告諭セヨ

明治五年壬申十一月廿八日

0345

徵兵告諭

我

朝上古ノ制海内舉テ兵ナラサルハナシ有事ノ

日

天子之ル元帥トナリ丁壯兵役ニ堪ユル者ヲ募

リ以テ不服ヲ征ス役ヲ解ト家ニ歸レハ農タリ

エタリ又商賈タリ固ヨリ後世ノ雙刀ヲ帶ヒ武

士ト稱シ抗顔坐食シ甚シキニ至テハ人ヲ殺シ

官其罪ヲ問ハサル者ノ如キニ非ヌ抑

神武天皇珍彦ヲ以テ葛城ノ國造トナセシヨリ

改
兵
令

爾後軍團ヲ設ケ衛士防人ノ制ヲ定メ神龜天平
 際ニ至リ六府二鎮ノ設ケ始テ備ル保元平治
 以後朝綱頽弛兵權終ニ武門ノ手ニ墜テ國ハ封
 建ノ勢ヲ為シ人ハ兵農ノ別ヲ為ス降テ後世ニ
 至リ名分全ク泯没シ其弊勝テ言フ可カラス然
 ルニ大政維新列藩版圖ヲ奉還シ辛未ノ歲ニ及
 ヒ遠ク郡縣ノ古ニ復ス世襲坐食ノ士ハ其祿ヲ
 減シ刀劍ヲ脫スルヲ許シ四民漸ク自由ノ權ヲ
 得ヒシメントス是レ上下ヲ平均シ人權ヲ齊一
 ニスル道ニシテ則チ兵農ヲ合一ニスル基ナリ

是ニ於テ士ノ後前ノ士ニ非ス民ハ後前ノ民ニ
 アラス均シク皇國一般ノ民ニシテ國ニ報ス
 ルノ道モ固ヨリ其別ナカルハシ凡ク天地ノ間
 一事一物トシテ税アラサルハナレシ以テ國用ニ
 充ツ然ラハ則チ人タルモノ固ヨリ心カヲ盡シ
 國ニ報セサルヘカラス西人之ヲ稱シテ血税ト
 云フ其生血ヲ以テ國ニ報スルノ謂ナリ且ツ國
 家ニ災害アレハ人々其災害ノ一分ヲ受サルヲ
 得ス是故ニ人々心カヲ盡シ國家ノ災害ヲ防ク
 ハ則チ自己ノ災害ヲ防クノ基タルヲ知ルヘシ

改

下

入

二

苟モ國アレハ則テ兵備アリ兵備アレハ則テ人
 ヲ其役ニ就カサルヲ得ス是ニ由テ之ヲ觀レハ
 民兵ノ法タル固ヨリ天然ノ理ニシテ偶然作意
 ノ法ニ非ス然而シテ其制ノ如キハ古今ヲ斟酌
 シ時ト宜ヲ制セサルヘカラス西洋諸國數百年
 來研究實踐以テ兵制ヲ定ム故ヲ以テ其法極メ
 テ精密ナリ然レトモ政體地理ノ異ナル悉ク之
 ヲ用フ可カラス故ニ今其長スル所ヲ取リ古昔
 ノ軍制ヲ補ヒ海陸二軍ヲ備ヘ全國四民男兒二
 十歳ニ至ル者ハ盡ク兵籍ニ編入シ以テ緩急ノ

0349

用ニ備フヘシ郷長里正厚ク此御趣意ヲ奉シ
徴兵令ニ依リ民庶ヲ説諭シ國家保護ノ大本ヲ
知ラシムヘキ也

明治五年壬申十一月廿八日

太政官

改
兵
令

三

徴兵令

緒言

兵ヲ徴スルノ方法ハ國家ノ大業忽ニスヘカラ
 サル者ニシテ又之ヲ實踐ニ行フノ難キ固ヨリ
 言フヲ俟タス其法タル古今其制ヲ異ニシ各國
 其趣キヲ同ノセスト雖要スルニ一ニ民兵ニ因
 ラリル者ナシ所謂民兵ニ二種アリ曰ク壯兵曰
 ク賦兵是ナリ賦兵ナル者ハ全國ノ丁壯ヲシテ
 兵役ヲ帶ハシメ陸軍ノ兵員ヲ充タシ其内沿海
 ノ住民舟楫波濤ニ慣レシ者ヲ以テ海軍ノ兵員

徴兵令

ニ充ツ而壯兵ハ自兵役ヲ望ミ出テシ者ニシテ
 服役數年ヲ帶ヒ普ク武技ニ熟練シ一團精兵ト
 ナリ頗其便益ヲ得ル者ナリ然レモ後日ニ至リ
 或ハ弊害ヲ生スル無キ能ハス是故ニ壯兵ノ法
 ヲ廢シ賦兵一般ノ制度ヲ建テント欲ス竊ニ各
 國賦兵ノ制ヲ考フルニ大率服役八年乃至二十
 年ヲ以程度トス今

國朝實ニ始メテ賦兵ノ大典ヲ起シントスルニ
 方リ兵役ノ久キ恐ラクハ人民生活ノ業ヲ妨害
 シ且當今ノ國力ニ於テハ關係愈シ、謂フヘカ

0352

ラス是一於ノ斟酌其宜ヲ採リ折衷其要ヲ授キ
現今實際ニ行フノ法ヲ定メ題シテ徵兵令ト云
フ

教

兵

令

五

0353

徴兵編成并ニ概則

徴兵ハ國民ノ年甫メテ二十歳ニ至ル者ヲ徴シ以海陸兩軍ニ充タシムル者ナリ今爰ニ陸軍ヲ大別シテ三種トナス其一常備軍其二後備軍其三國民軍是ナリ又其兵丁ノ身材ニ從ヒ五派ノ兵種ニ區別ス曰ク砲兵曰ク騎兵曰ク歩兵曰ク工兵曰ク輜重兵而各種ノ兵皆各管鎮臺ノ國郡ヨリ召集シ若干年ノ役ヲ帶ハシメ所管鎮臺ニ備ヘ以地方ノ守衛ニ充ツ

其一

大

ニ

ハ

一

六

0354

第九拾七號

徵兵令中徵兵編成并概則其中左ノ通增加并改正候條此旨布告候

事

明治九年六月三十日

太政大臣三條實美

增加

第三條 讀書算術ノ出來得ル者ハ檢査格例ニ照シ拔擢シテ教導團
ニ入レ卒業ノ上下士ニ任ヌ其學術秀逸ニシテ殊ニ行狀方正ナル
者ハ又之ヲ拔擢シテ士官學校ニ轉入セシム

改正

0354-2

第三條ヲ第四條トシ

陸軍勤仕シ望アル者ハ願ニ從フテ検査ノ上教導團ニ入レ學業進

歩ノ上拔擢採用スルコ亦上條ニ照準ス

第四條ノ(四)ヲ(五)第五條ノ(五)ヲ(六)第六條ノ(六)ヲ(七)トス

軍規

陸軍武官大員令

陸軍省令

0354-3

律 兵 令

常備軍ハ本年徴兵ノ抽籤セシ者ヲ以編成シ三
ケ年ノ役ヲ帶ハシムル者ナリ

第一條 在營中定額ノ日給ヲ與フ其他食

料服類共官給タルヘシ

第二條 强壮ニシテ技藝ニ熟シ行狀正シ

キ者ハ拔擢シテ近衛兵ニ充ツ

但近衛兵規則別ニ記ス

第三條 陸軍勤仕ノ望アル者ハ願ニ從フ

テ檢査ノ上教導團ニ入レ學業進

歩ノ上ハ士官又ハ下士ニ任ス

第四條

技藝ニ熟シ才氣アル者ハ人撰ノ
以其隊ノ下士ニ任ス

第五條

下士ニ任セラレタル者ハ更ニ七
ケ年ノ役ヲ帶ハシメ後備兵籍ヲ

除ス最其人材ニ從フヲ後備軍ノ

士官又ハ下士ニ任ス

第六條

兵卒ハ總ヘテ三ケ年ノ服役ヲ有
スト雖大平閑暇ノ時ハ服役ニケ

年以上ニシテ技藝熟練スル者ハ

詮議ノ上歸休ヲ許ス

及
兵
七

0356

律
兵
令

歸休證書并ニ規則

年号

何府縣何郡所住居何旗或職業

常備第何番

親名何男或兄叔伯名弟甥又厄介

徵兵

入營第何番

何某

右入營以來操練ニ勉勵シ其他勤方宜敷候ニ付
令ヨリ何ヶ月ノ間休暇申付候最非常ノ節ハ布
令次第早々歸營可致事

年号月日

何鎮臺

第一則

銃器服類屬具共保存ノ手當ヲナ
シ姓名番号ヲ記シ一ツ書ニシテ
其隊ノ給養戡軍曹ニ引渡シ置ク
ベシ

第二則

歸休中ト雖在營ノ心得ヲ以他出
スルモ其管内ヲ出ツルヲ禁ム

第三則

歸休中萬一病氣ニテ期限通り歸
營相成リ難キ者ハ醫師ノ証書及
七府縣ノ証印ヲ取り其筋ヲ經テ
鎮臺へ届出ツヘシ若又父母ノ重

文

ノ

ハ

ハ

病并ヒニ死没等止ムヲ得サル事
 故出来ノ者ハ醫師ノ証書并ヒニ
 其事故ニ係ル親族及ヒ有縣ノ
 証印ヲ以願出ツヘシ其節詮議ノ
 上日數ヲ定メ之ヲ許スヘシ

其二

後備軍ハ常備軍三ヶ年ノ役ヲ勤メ終リシ者ヲ
 以編成シ常ニ家居シ産業ヲ營マシム後之ヲ別
 チテ二種トナス曰ク第一後備軍曰ク第二後備
 軍是ナリ

第一後備軍ハ二ヶ年ノ役ヲ帶ハシノ戦時ニ當
リテハ直チニ召集シ常備軍ニ加ヘ其員ヲ充足
セシム可キヲ以一歳ニ一度屯營ニ召集シ其技
ヲ復習セシムル者ナリ

第一條 屯營中ハ定額ノ日給ヲ與フ其他
食料服類共官給タルヘシ

第二條 技藝ニ熟シ才氣アル者ハ服役中
同軍ノ下士ニ任ス

第三條 服役中他出スルモ管内ヲ出ツル
ヲ禁ス若止ムヲ得サル事故アル

教
兵
令

九

時、其鎮臺ニ願出テ免許ノ請ヲ
 へシ最復習期限ニ妨碍ス可ラス
 第二後備軍ハ第一後備軍ニケ年ノ役ヲ勤メ終
 リシ者ヲ以編成シ尚ニケ年ノ役ヲ帶ハシメ
 一後備軍ニ繼キ召集スヘキ兵タルヲ以平時也
 營召集ヲ要ヒサル者ナリ

但服役中管内ヲ出ツル時ハ出入弁ヒニ往
 先其其筋ヲ經テ鎮臺ニ届出ツヘシ最第一
 後備軍非常屯集ノ節ハ早々管内へ歸ルヘ
 シ

總ヘテ徵兵ノ服役期限ニ滿ツル者ト雖戰時ハ勿論非
常ノ事故アル時ハ其期ヲ延ハサ、ルヲ得ス

其三

國民軍ハ常備後備兩軍ノ外ニ全國ノ男兒十七
歳ヨリ四十歳迄ノ人員ヲ兵籍ニ載セ置キ第二
後備軍召集ノ後ハ時機ニ從ヒ隊伍ニ編入シ其
指麾ヲ待テテ進退セシムル者ナリ

第一章 徵兵官員并ヒニ職掌

第一條 徵兵使

陸軍中佐或ハ少佐ノ内一人之ニ任シ府縣

往

出張し知事令又ハ参事ト議シ徵兵ノ諸務ヲ總管ス

但時宜ニ由リテハ副使ヲ遣ハシ代理

セシム

第三條 徵兵副使

陸軍大中少尉ヲ以之ニ任ス人員ハ巡迴府縣ノ大小ニ應シ正使ヲ佐ケ議官及ヒ軍醫副以下ノ醫官ト共ニ區邑ヲ巡行シ徵兵規則内ノ事件ヲ決議シ抽籤等ノ事ヲ掌ル

第三條 書記

陸軍下士或ハ軍屬十等以下十五等迄ノ者
ヲ以之ニ任ス人員ハ二人乃至三人トス徵
兵使ノ諸記録ヲ掌ル

第四條 議長

府縣ノ知事令參事ノ内一人之ニ任ス徵兵
ノ事ニ付キ審斷判決ノ事ヲ掌ル

第五條 議官

屬以下十五等迄ノ者ヲ以之ニ任ス人員ハ
徵兵副使ノ數ニ准ス徵兵副使ト共ニ區邑
ヲ巡行シ議長ノ職掌ヲ輔翼ス

改
六
二

上

第六條 議員

區長或ハ戸長ヲ以之ニ任ス人員ハ大抵其
檢査スル所ノ區數ニ倍ス公文ヲ布達シ民
情ヲ上伸スル事ヲ掌ル

第七條 軍醫一人

徵兵使ニ從ヒ兵丁ノ身材骨格兵役ニ適ス
ルヤ否ヤヲ檢査スル事ヲ掌ル

第八條 軍醫副ヨリ試補ニ至ル

徵兵副使ニ從ヒ區邑ヲ巡廻ス職掌軍醫ニ
同人員ハ大抵徵兵副使ノ數ニ倍ス

第九條 傭醫

府縣ノ撰ヲ以之ヲ命ス人員ハ其檢査スル
所ノ區數ニ准シ軍醫ニ從ヒ其土ニ生スル
所ノ疾病ヲ具狀シ兼テ檢査ノ事件ヲ記
録ス

第十條 筆生

府縣ノ撰ヲ以之ヲ命ス其人員適宜ニ任ス
ト雖大抵議員ノ數ニ准シ檢査抽籤中ノ件
々ヲ記録スル事ヲ掌ル

第十一條 徵兵使并ニ議長軍醫ハ各府縣ニ

改

六

三

滞_レ在_シ徵兵ニ關スル諸務ヲ總裁ス書記之
ニ屬ス副使議官軍醫副以下組ヲ立テ、各
區ニ分行スル者トス

第十二條 徵兵諸官ハ一歳ノ徵兵事務ヲ竣ハ
レハ悉職ヲ解ク者トス

第二章 徵兵使巡行并ヒニ檢査前事務

第一條 徵兵使巡行ハ二月十五日ヨリ始メ第

一章中第一條第二條ニ揭示シタル陸軍武
官并ヒニ軍醫等一行ト為リ府縣ニ出張シ
地方ノ諸官ト合議シ徵兵署ヲ設ケ常備ノ

定員ヲ充タス1ヨリ免役願出テノ者等總
ヘテ徵兵ニ關スル事務ヲ管理ス其出務ノ
時間ハ大抵本省ニ准クト雖速ニ事務ヲ竣
ハルヲ要スルヲ以時刻ヲ變易スルハ時宜
ニ由ルヘシ

第二條 代人料上納兵役免除ヲ願出テシ者ハ

第六章中ノ第十五條第十六條ニ揭示シタ
ル書面ヲ以篤ト取糺シ紛レナキ者ハ聞届
クヘシ

第三條 府縣ヨリ陸軍省へ差出シタル徵兵連

段

兵令

三

名簿ヲ照シ當府縣ニ於テ當年徵兵幾人其
内兵種相當ノ人員及、補充ノ員數ヲ算定
シ又免役連名簿并ヒニ箇條書取糺シ中ニ
就キテ學徒ハ學校ノ証書及ヒ科目免許書
等差出タカセ點檢スヘシ

第四條 徵兵ニ採ルヘキ者ハ免役規則ニ適ス
ル者ヲ除クノ外如何ナル苦情之アルトモ
決シテ聞届クヘカラス

第三章 常備兵免役概則

第一條 身ノ丈五尺尺曲未滿ノ者

第二條 羸弱ニシテ宿病及ヒ不具等ニテ兵役

ニ堪ヘサル者

第三條 院省使廳府縣ニ奉職ノ者

但等外ニ此例ニ准ス

第四條 陸海軍ノ生徒

第五條 文部工部開拓其他ノ公塾ニ學ヒタル

専門生徒及ヒ洋行修業ノ者并ヒニ醫術馬

醫術ノ學ノ者教導職試補ノ者

但教官ノ証書并ヒニ何等科目ノ免許

書アル者科目ノ等未定

改
兵

市

第六條 一家ノ主人タル者

第七條 嗣子并ヒニ承祖ノ孫

但養子約束ノヨニテ未實家ニ在ル者ハ此例ニ非ス

第八條 獨子獨孫

第九條 罪科アル者

但除族并ヒニ懲役實決一ケ年以上

ノ刑ヲ蒙リタル者

第十條 父兄存在スル共病氣苦クハ事故アリ

テ父兄ニ代ハリ家ノ治ムル者

第十一條 常備兵在役中ノ者ノ兄弟

第四章 徴兵検査

第一條 徴兵検査定日ハ前以陸軍省ヨリ各府

縣ハ布達シ區括リ日割リヲ以一日幾人ト

定メ區長或ハ戸長ノ内順序ニ召連レ出ツ

ヘシ

第二條 徴兵使巡行ノ時節ニ至レハ府縣廳ヨ

リ各區ニ左式ノ罪紙ヲ渡シ本年徴兵タル

者ニ一枚宛渡シ當人ヲシテ朱書ニ示シタ

徴

兵

令

一

五

律
子
人

ル如ク姓名産國住居親ノ名或ハ兄叔伯總
 ヘテ戸主タル者ノ名本年月日誕生年月月
 日其他罪紙題号ノ下ニ父母ノ存亡ハ勿論
 同居ノ祖父母兄弟妻子及ヒ氏神宗門等書
 載セレメ人別表ト稱ヘ檢査ノ時各個持參
 シ軍醫ニ渡スヘシ
 區々ニ渡シタル罪紙ノ残りハ徵兵事務
 竣ハルノ後府縣廳ヘ返納スヘシ

人別表

0373

何郡所産
何郡所住
何府縣何族或職業

徵兵

年号月日

誕生年月日

親名何男或兄叔伯名弟甥又尼々

何某

職族
名
歳
數

父

母

祖父

祖母

兄弟

姉妹

子妻

氏 神 宗 門

但産國ト現今ノ貫属府縣ト異ル者ハ
表首何郡所産ト書スルノ上ニ其産國

改兵

共

名
一
ノ

府縣ヲ加ヘ若又寄留スル所ニ於テ
服役スル者ハ何郡所住ト書スルノ替
リニ其寄留スル府縣及ヒ何郡所寄留
ト書スヘシ

第三條 徵兵ノ體質ヲ検査スル時ハ徵兵副使

議官各一名列坐ス検査ノ件々ハ總テ軍

醫ヲ專任タルニシ

第四條 徵兵検査ノ席ニ出ツル時ハ各個人別

表ヲ所持シ醫官ニ渡ス醫官ハ書訖ヲ掌ル

者ニ渡シ姓名ヲ検査簿ニ留メシメ又身體骨

拾検査ノ件々ヲ記セシム

第五條 検査呼出シノ時ニ病氣ニテ出席成リ

難キ者ハ時トシテハ其家ニ就キ診斷ノ上

一時或ハ固着等ノ病質ヲ糺レ一時病氣ノ

者ハ翌年ノ徴兵ニ廻シ固着ノ者ハ免役規

則宿痾ノ者同斷タルヘシ

第六條 検査呼出シノ時ニ父母ノ喪ニ罹リ未

三週間ヲ過キサル者或ハ父母ノ重病及ヒ

一家ノ安危ニ係リ一時止ムヲ得サル事故

出来ノ者ハ夫々詳細書及ヒ戸長ノ証印ヲ

文
六
一
七

以願出ル者ハ翌年ノ徵兵ニ廻スヘシ

但翌年ニ廻スヘキ徵兵ハ府縣毎ニ別簿ニ認メ徵兵署ノ檢印ヲ押シ府縣廳ヘ留置キ當冬ノ徵兵連名簿ト共ニ陸軍省ヘ差出スヘシ

第七條

徵兵署ニ隔タリタル區邑ハ副使軍醫

副以下ノ醫官及ヒ議官一行トナリ組ヲ分

チ巡廻センメ相應ノ場所ニ於テ假リニ檢

査場ヲ設ク其式本署ニ異ルヲナシ

第五章

抽籤并ヒニ讀筭試驗

第一條 身体検査終リタル後検査簿ヲ案ニ兵

役ニ適スヘキ者ヲ点檢シ府縣毎ニ常備抽

籤召集ノ為其定日及ヒ場所共前以布達ス

ヘシ

第二條 抽籤ノ場所ハ府縣廳所在ノ地或ハ管

内便宜ノ地ヲ以ス

第三條 抽籤ヲ五種ニ分チ其身材ニ從ヒ赤騎

砲工輜ノ籤ヲ抽カシム

第四條 本年常備ノ缺員ヲ補フ為補充兵トシ

九十日ヲ期トシ常備一ケ年ノ徵員二分ノ

改
五
六

一 以內ノ員數ヲ常備籤ト同時ニ抽カシム
 第五條 抽籤ノ法ハ籤丁ヲ調ヘ左式ノ如ク籤
 札ニ其員數丈ノ番号ヲ記シ籤箱ニ納シ籤
 簿方ノ側ニ置キ區分ケ或ハ部分ケニシテ
 混雜ヒサル様一人宛之ヲ抽カシメ籤簿方
 ハ始終籤簿ニ對シ抽籤ノ正不正ヲ監シ抽
 キ擧クレハ其番号ヲ自高聲ニ唱ヘシメ籤
 札ヲ受取リ籤簿ニ姓名番号ヲ記シ復之ヲ
 當人ニ返ス
 假令ハ籤丁五百人ナルハ第一番ヨリ

第六條

抽籤當日病氣ノ者ハ父兄親族又ハ戸

何番

(歩) (騎) (砲) (工) (輜)

籤札ハ厚紙縦横三ツ裁ハ
四ツ切ニシテ四ツ折ニナ
シ中分ヲ拈ル

五百番迄ノ札ヲ納レ之ヲ抽カシム本年
常備定員二百人補充百人ナルキハ二百
番迄ノ籤ヲ抽キレ者ヲ常備トナシ二百
一番ヨリ三百番迄ノ籤ヲ抽キレ者ヲ補
充トシ其餘ヲ以落籤トス

文
五

五

長ヲ以代入トス

第七條 抽籤以前ニ常備幾人補充幾人及ヒ籤

丁ノ総員幾人ト白紙ニ大書シ籤丁ヲシテ

之ヲ知ラシムヘシ

第八條 抽籤終リ常備及ヒ補充ニ當リタル者

ハ書翰往復算術等出来得ルヤ否ヤヲ試ム

ハシ

第九條 書翰并ヒニ算術ノ試験ハ筆生ノ内算

術ヲ心得居ル者ヲ撰任シ試験場ヲ設ク其

仕法ハ二三行ノ翰牘ヲ讀ミ易キ様三四枚

1880

認ノ花ヒニ十露盤等倫ハ置キ一人完讀文
 算術ノ内出来得ルヤ否ヤヲ問ヒ出来得ル
 者ニハ讀文ハ右翰牘ヲ讀マシノ無滞讀
 得ル者ヲ上等トシ二字以上誤ル者ヲ下等
 トス算術ハ除法以下誤リナキ者ヲ上等ト
 ナシ誤リアル者ヲ下等トナス
 第十條 試験全ク終ハルノ後籤簿ヲ照シ人別
 表ト引合ヒ姓名住居其他共左式ノ如ク厚
 紙長リ五寸幅三寸ノ割符ニ書載ヒ籤簿ニ
 引合ヒ割印ヲナシ番号並ヒニ服後年期ヲ

文

子

0382

割印年

月 号

陸軍

兵種
番號

何 某

親名何男或兄叔伯名弟甥又厄次

何府縣何郡所住居何族或職業

番号割符

替へ相渡スヘシ

書加へ籤簿順ニ呼出タシ籤札ヲ出タサシ
ノ相違ナキ者ハ籤札ト右番号割符ト引

往 兵 令

日
省

右何鎮臺常備軍三ヶ年服役申付候事

補充籤ヲ抽キニ者ハ 右何鎮臺補充

兵九十日服役申付候事

第一後備軍ニ入ル者ハ 右何鎮臺第一

後備軍ニケ年服役申付候事

第二後備軍ニ入ル者ハ 右何鎮臺第二

後備軍ニケ年服役申付候事

第十一條 補充役ヲ命セラレタル者ハ其家ニ

改
兵

主

歸居シ常備缺員ノ節ハ其鎮臺ヨリ籤順ニ
布達シ何時ニテモ入營ナサレムヘイニ付

キ服役中ハ其管内ヲ出ツルヲ禁ス

但本年常備兵入營期限初日ヨリ算レ
九十日目ノ其日迄ニ常備入營ヲ命セ
ラレサル者ハ即除役ト心得ヘシ

第十二條 補充ヨリ常備軍ニ命セラレタル者

ハ本人入營ノ月日ニ拘ラス總ニテ自
分同
年ノ常備兵入營期限初日ヨリ三
年ノ期
ヲ保ツヘシ

第十三條 常備軍満期ノ者ハ後備軍ノ番号割

符ヲ渡シ而常備役ノ番号割符ニ満期ノ檢
印ヲ押スヘシ

第十四條 第一後備軍満期ノ者ハ第二後備軍

ノ番號割符ヲ渡シ而第一後備役ノ番號割
符ニ満期ノ檢印ヲ押スヘシ

第十五條 第二後備軍ノ番號割符ヲ受ケ服役

ニケ年ノ後ハ第二後備軍ノ籍ヲ除セラレ
シ者ト心得ヘシ

第十六條 徵兵使ハ各府縣ニ於テ徵兵事件全

數

五

八

一

三

五

省
兵
令

觀見取
水人姓名

何 某

同

同

同

ク竣ハルノ後徴スル所ノ兵員ヲ精算シ兵
種ヲ分テ左式ノ昇紙ニ各個持參致シタル
徴兵人別表ヲ寫シ取リ身体検査表讀文算
術試験簿及ヒ籤番号ヨリ状貌其他題号ノ
下ニ悉書載ヒ兵卒明細連名籍ヲ認メ常備
補充ヲ區別シ一府縣ニ纏メ各ニ部ヲ作り
陸軍省及ヒ所管ノ鎮臺へ差出タスヘシ
但鎮臺へ渡ス兵卒明細連名籍ハ籤簿
ヲ添へ四月十五日迄ニ差廻スヘシ

4880

備考	藝		變 算術	及 身體質	子	妻	姉 妹	兄 弟	祖 母	祖 父	母	父	宗 門	氏 神	職 業 本 入	族 親	誕 生	住 所	産 国	
	補 充	常 備																		

別 徵	痘 天 然 (種)	眉 半字 濃淡疎密長短細大	髮 半字 濃淡疎密茶褐卷縮	顚 半字 長短大圓張背曲	口 半字 大小上下唇厚薄露	鼻 半字 隆平大小及尖平曲鼻梁 高低鼻骨異大小鼻孔翳 大小半字	眼 半字 大小銳鈍凹陷凸翳 無細圓等字	額 半字 長短廣狹扁凸	顏 半字 長短方圓大小扁平 廣潤等字	骨 相	兵卒明細連名籍	
											陸軍省	

第十七條 徵兵出席ノ名簿ヨリ代人料上納名

簿免役名簿其他種々ノ願書及ヒ届書區長

戸長ノ取調、証書惣、テ徵兵ニ關スル書

類ハ一切兵卒明細連名籍ト共ニ陸軍省、

差出タスヘシ

第六章 徵兵雜則并ヒニ扱方

第一條 常備籤ヲ抽キタル徵兵ハ四月廿日ヨ

リ五月一日迄ニ入營致スヘシ其營所迄ハ

府縣毎ニ區括リニシテ區長或ハ戸長ノ内

召連レ出ツヘシ最營所ニテハ籤ノ番号ヲ

支 六 八 三 五